

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研 究 テーマ	学生の共生意識向上に関する研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	二羽 泰子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	国際関係学部・講師	氏名	二羽 泰子

講演題目
学生の共生意識向上に関する研究
研究の目的、成果及び今後の展望
本研究の目的は、厳しい背景のあるマイノリティへのヘイトや無関心が横行する昨今において、本学の学生が、マイノリティへの差別問題や多様な人々との共生の問題と向き合うために必要な教育実践について研究することである。 現在本学にも、性・ジェンダー、障害の有無、文化背景、経済的背景などにおいて、多様な学生が在籍している。また、SNS 等を通じて、学生が多様な人々との交流や情報を得る機会が増加すると共に、無自覚のうちに差別やヘイトに加担したり巻き込まれたりする機会も増加している。このような背景の下、本学で学ぶ学生が、差別問題やマイノリティとの共生について学び、行動する機会を創っていくことは喫緊の課題である。 そこで本研究を通じて、1) 差別問題や共生の問題に、自らの問題として向き合う姿勢を醸成する授業はどのようなものか、2) 演習や卒業研究において、差別問題や共生の問題と向き合おうとする学生をいかに効果的に支援できるか、の2点について、実践的に明らかにすることを目指した。 1) については、授業において、外国人・障害者・沖縄・被差別部落民に対するヘイトクライムや差別、旧植民地に残る植民地化の影響、国際援助の非対称な関係性がもたらす影響、性・ジェンダーをめぐる葛藤、表現の自由とマイノリティへの差別が交差する問題の検討などの問題を扱い、これらの問題の提示の仕方、論点を問いかける方法、ディスカッションの方法等について、多様な方法を採用し、学生のフィードバックから、それぞれの効果について考察した。その結果、ケーススタディなどの異なる立場を身近に考えられるアクティビティと、それらを社会的な問題分析につなげるためのアカデミックなディスカッション課題や調査課題の提示とを組み合わせることが、最も効果的であった。 2) については、演習の授業において、インクルーシブ教育の実践を行っている学校への訪問や子どもたちとのディスカッション、それぞれの研究関心に応じた活動への参加や当事者への聞き取りなどのフィールドワークをできるだけ多く取り入れた結果、フィールドにおいて異なる立場の人たちとの関係性を構築し、そこで聞いた人々の声を他者に伝えたいという思いが芽生えた。そのように真剣にフィールドに向き合った学生は、分厚いデータを収集し、卒業研究において鋭い問題分析を行った。